

アンケート調査に見る道守認定者の活用と評価

長崎大学工学研究科 フェロー会員○高橋和雄
長崎大学工学研究科 正会員 松田 浩

1. まえがき

長崎大学は、2008年度より道路の維持管理の人材を育成する道守養成講座を実施してきた。2015年に実施した道守認定者アンケート調査は、国土交通省の民間資格の登録直後で、公共事業への参画がない時点であった。その後、公共事業への活用、道守認定者の組織の結成、養成講座の実施方法の見直しがなされた。以上を踏まえて、2018年9月に道守認定者を対象に、技術者やボランティアとしての活動、道守養成ユニットの会での活動、道守養成講座の今後、民間資格への新たな登録、道守認定者の自己評価・満足状況等をアンケート調査した。さらに、所属事業所へのアンケート調査も併せて実施した。本報告ではこれらのアンケートの結果のうち道守認定者の所属組織への貢献と評価、発注者の評価、地場企業への効果、自己評価・満足状況等をまとめるとともに、課題解決に向けて考察と提案を述べる。

2. アンケート調査の概要

道守認定者向けのアンケート調査票を2018年9月にメールで送付し、メールで回収した。回収率は51%で、資格別にみると道守補の回収率が低い。同時期に道守認定者が所属する事業所にもアンケート調査を実施した(回収率54%)。

(1) 所属組織への貢献と評価 道守認定者に「道守の資格が組織にどのように役立ったか」を複数回答で聞いた主な結果を表-1に示す。「維持管理に関する情報の収集」が最も多く、次いで「産官学の人のネットワーク」が挙げられている。組織に直接役立つというより、維持管理に関する組織内の環境ができたとしている。3位以下の「工事における維持管理を考慮した技術提案」、「受注枠の拡大」等が組織に対する具体的な貢献であるが、その割合は20%程度以下でまだ低い。「特に無い」とする回答は14%であった。事業所アンケートでは「新たな資格の取得」が24%で道守認定者の回答より10%高い。

「道守の資格で公共事業の業務もしくは工事を受注したことがあるか」に対する回答は「ある」は19%で、「対象外の業種」を除くと22%である。事業所アンケートでも20%で同程度である。受注先は複数選択で「長崎県」67%、「長崎市」32%、「長崎市を除く県内市町」39%、「長崎県建設技術研究センター」（県内の一部の点検業務を委託・発注）25%である。国の機関等は1件(3%)のみであった。受注の内容は「業務」79%、「工事」18%、「工事と業務の両方」3%である。

道守認定者が所属する組織で「道守の資格が維持管理の技術者として評価されているか」を確認したところ、道守認定者と事業所の回答は表-2に示すとおりである。「評価されている」は38%、「評価している」は52%である一方で、「どちらともいえない」とする回答

表-1 道守の資格が組織に役立った主な内容
(N=175、複数回答)

項 目	%
維持管理に関する情報の収集	53.1
産官学の人のネットワーク	34.9
工事における維持管理を考慮した技術提案	20.6
受注枠の拡大	18.3
工事や業務発注時の技術提案	16.6
組織内の維持管理部門の設置・強化等	15.4
新たな資格の取得	14.9

表-2 道守認定者の組織内と事業所内の評価

項 目	認定者 (N=175)	事業所 (N=79)
評価されている(している)	37.8 %	51.9%
評価されていない(していない)	22.7	13.9
どちらともいえない	38.4	34.2
無回答	1.1	0.0

が目立つ。全体的にみると「やや評価している」といえる。道守の資格別にみると、「評価されている」は、「道守補」28%、「特定道守」49%、「道守」64%となっており、資格によって顕著な差が見受けられる。特定道守以上は、組織を代表する技術者が受講していることを反映していると考えられる。道守認定者が所属する業種別にみると、「評価されている」は「建設コンサルタント業」89%、「県・市町」60%、「建設業」18%である。「建設業」では「評価されていない」が28%で「評価されている」の18%よりも多い。

(2) 発注者の評価 民間の道守認定者を対象に、「道守の資格は維持管理の技術者として、発注者に評価されているか」どうかを聞いた結果を事業所アンケートの結果とともに表-3に示す。発注者からの評価については、どの選択肢も3分の1程度で見解が分かれた。

これを業種別に集計すると建設業では、「評価されている」13%と「評価されていない」47%であるのに対して、建設コンサルタント業では、「評価されている」48%と「評価されていない」14%となっている。

(3) 地場企業への効果 事業所に「道守認定者が地場企業にどんな点に効果があったか」について聞いた結果を表-4にまとめる。「維持管理技術の向上」と「競争力の向上」には「役立っている」が、「収益増」にはあまり結びついていない。業種別にクロス集計すると、特に建設業については「競争力の向上」と「収益増」に「ほとんど役立っていない」と判断されている。「維持管理技術の向上」には異論はないようである。

以上をまとめると、道守認定者は建設コンサルタント業では技術者として事業所及び発注者から評価されつつあるのに対して、建設業では評価されていないことが分かる。建設業に所属する道守認定者が多いので、工事で道守の活用を進めることが大きな課題といえる。また、道守補の評価が低いので、技術者として評価されている特定道守以上の資格取得を推奨することも重要と考えられる。

(4) 自己評価 「道守養成講座を受講し道守認定者の資格を得たことをどう自己評価しているか」に関しては、「良かった」は74%、「何ともいえない」は26%で、「良くなかった」は皆無であった(図-1)。

業種別では建設コンサルタント業では「良かった」は91%と高い割合となった。道守の資格、活動に満足しているかについては「満足」22%、「やや満足」40%、「やや不満足」25%、「不満足」12%となった(図-2)。全体では「やや満足」が多いが、業種別では建設業が「やや不満足」が多い。

3. まとめ

道守養成講座の今後、民間資格への新たな登録等については、講演時発表する。

表-3 道守認定者の発注者の評価

項 目	認定者 (N=155)	事業所 (N=79)
評価されている	28.4%	34.2%
評価されていない	31.6	30.4
どちらともいえない	33.6	35.4
無回答	6.4	0.0

表-4 道守認定者が地場企業にもたらした効果（事業所）（N=79）

項 目	技術力向上	競争力向上	収益増
かなり役立っている	24.1%	19.0%	7.6%
少し役立っている	43.0	35.4	33.0
ほとんど役立っていない	24.1	41.8	50.6
無回答	3.8	3.8	3.8

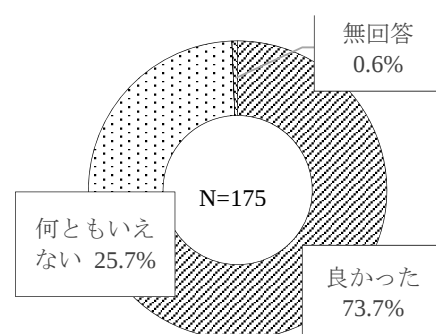


図-1 道守認定者になったことに対する自己評価

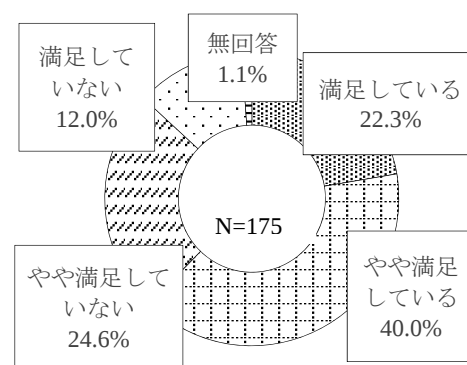


図-2 道守認定者になったことに対する満足状況